

# ずっと住み続けたい にしもろを、未来に

にしもろ定住自立圏共生ビジョンを策定

ずっとここで暮らしたい。  
市町村の垣根を越えて、そう思えるような  
住みやすいエリアを目指す構想が「定住自立圏構想」です。  
西諸の2市1町は、平成24年10月、定住自立圏形成協定を締結。  
今年7月には、具体的な取り組みを盛り込んだ共生ビジョンを公表しました



今年度から5年間  
各分野53事業で連携

協定を調印後、具体的な  
取り組みの計画となる共生  
ビジョンを策定するため、  
圏域の住民や産業、福祉、  
医療の関係者など30人で構  
成する懇談会を設置。懇談  
会での意見を踏まえ、今年  
7月、「にしもろ定住自立  
圏共生ビジョン」が公表さ  
れました。

この共生ビジョンには、  
2市1町が連携して取り組  
む53の事業がまとめられて  
います。取り組み期間は  
2013年度から17年度ま  
での5年間で、連携する分  
野は、保健・医療や産業振  
興などさまざま。毎年検証  
を行い、現在連携をしてい  
ないものでも、必要なもの  
は新たに追加していくなど  
見直しを行っていきます。  
2市1町では、「魅力あ  
る住みよいまちにしもろ」  
を将来像に、ずっと快適で  
安心して暮らしていける西  
諸を目指していきます。

## インタビュー

にしもろ定住自立圏に暮らしている人に  
期待することを聴きました

テーマ「移住・定住」

西諸の自然の恵みを、ずっと将来に



北きりしま移住支援  
センター  
なかざと  
中里 みきさん

農家民泊で会った西諸の人と  
自然に惹かれ、移住しまし  
た。現在は、短期滞在の受け  
入れや、移住情報の提供など  
を行うセンターを運営してい  
ます。西諸の強みは、きれい  
な水や美味しい農産物、ホタ  
ルが飛び交う豊かな原風景な  
ど。この自然の恵みを将来に  
残すため、足並みのそろった  
取り組みを期待します。

テーマ「観光」

共通した観光資源で滞在型ツアーも

えびのガイドクラブでは、市  
内名所を巡るバスツアーやウ  
ォークラリーなどのガイドを  
行っています。西諸は、霧島  
の恵みを受けた湧水や温泉、  
歴史・文化など、共通した観  
光資源を持つ地域。互いに連  
携することで、土地の魅力を  
より深く堪能してもらう滞在  
型ツアーの企画が組めるな  
ど、可能性が広がります。



えびのガイドクラブ  
会長  
みなみつる よしてる  
南 鶴 吉照さん

テーマ「防災」

各市町の隣接する地区で、助け合いを



北狭野区  
区長  
かもち よしまさ  
蒲生地 吉正さん

新燃岳が噴火した際に、避難  
所を余儀なくされました。避難  
所でのバックアップなどの他  
にも、生活に関わる灰の処理  
の手伝いや、家畜の避難場所  
を提供してもらうなど、町だ  
けではできない、さまざまな  
援助があったことも感謝して  
います。各市町の隣接する地  
区で、消防活動など助け合い  
もできればいいですね。

連携して取り組む事業



広域的資機材・備蓄等整備事業

有事に備え、西諸広域災害拠点施設へ、  
資機材、備蓄品などを整備する

農家民泊、グリーン・ツーリズム推進事業

農家民泊を柱とした体験型観光の推進や  
修学旅行の誘致について検討を行う



自殺予防対策事業

こころの相談窓口の相互利用を促進し、  
相談体制の充実、情報の共有化を図る

スポーツ大会・合宿等誘致推進事業

広域的に受け入れるメリットを生かした  
スポーツ・合宿誘致活動などを推進する



廃プラスチック処理事業

プラスチック製容器包装の中間処理を共  
同で行う

吉都線開業100周年記念事業

各種記念イベント等の継続的な実施と観  
光列車誘致に取り組む



「定住」「自立」「圏」とは？

暮らしに必要な機能がそろっていること

「定住」 ずっとここに  
住むこと

「自立」 近くのまちがお互いに  
協力して取り組むこと

「圏」

西諸圏域が抱える人口  
減少と進む高齢化率

私たちが暮らす西諸圏  
域の人口は、1985年  
の9万4千人をピークに  
減り始め、推計によると、  
2030年には約6万2千  
人になると見込まれていま  
す（下表1を参照）。

圏域の高齢化率（全体に  
占める65歳以上の割合）は、  
1980年は12・9割でし

たが、2010年には31・  
8割と、急速に高齢化が進  
んでいます。今後も上昇し  
続け、2030年には42・  
8割（約2人に1人が65歳  
以上）となる見込みです（下  
表2を参照）。

定住自立圏構想で、  
圏域の活性化を図る

こういった人口減少や超  
高齢社会の中では、各市町  
が単独で、住民に必要な機  
能を整備しながら、さまざ  
まな課題を解決していくこ  
とが難しくなっています。

そこで2市1町は、役割  
を分担しながら連携し、定  
住人口を確保する「定住自  
立圏構想」を検討。平成24  
年4月、2市1町からなる  
協議会を設置し、協議を重  
ねてきました。そして平成  
24年10月、定住自立圏の形  
成協定を締結。それぞれの  
地域が持つ強みを活かし、  
弱みを補完し合いながら、  
圏域全体を活性化させる  
「にしもろ定住自立圏」が  
誕生しました。

表2 高齢化の推移（国勢調査・本調査推計）

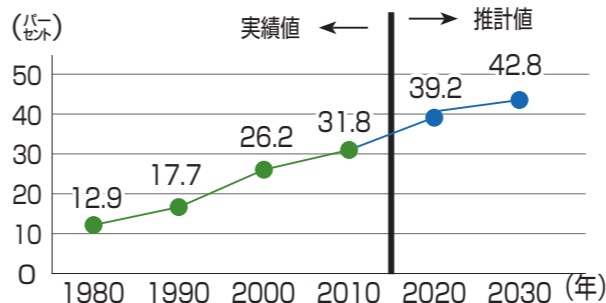


表1 総人口の推移（国勢調査・本調査推計）

